

政治の貧困と科学リテラシーの欠如がフクシマを生んだ － 無視された新除染技術と不要だった世界一厳しい食品の基準 －

Poverty of politics and lack of the scientific literacy produced “FUKUSHIMA”

Ignorance of new effective decontamination technique and too severe standards
for acceptable limits for radioactivity in food

*川合 将義¹

¹高エネルギー加速器研究機構 (KEK)

面的除染が終了して避難指示解除後も帰還が進まず、食品の市場価格が回復しないフクシマ。この最たる原因は、簡便かつ廃棄物を最小化できる新除染技術が無視された当時の政治貧困と福島食品の内部被ばくの目標値をはるかに下回っていた科学的事実を目を向けずに強行された食品基準の改訂にあった。

キーワード：福島、政治、科学リテラシー、セシウム、除染、食品の基準、風評被害、シロキサン結合

1. 緒言

東日本震災後6年半経ち、面的除染が終了して避難指示が解除されたが、元避難指示区域への帰還が進んでいない。また、福島産の食品に対する他産地食品に対する市場相対価格が回復していない。除染とカリウム追肥の努力、食品の汚染検査での自己規制で内部被ばくの虞れは殆ど無くても、新聞報道されない。ただ、それを生み出した根本要因は、政治の貧困と科学リテラシーの欠如にあると思うに至った。

2. 除染の新技術の無視が痛かった

除染が6年も経過したことで、元避難指示区域の人たちの帰還の意志は大いに損なわれた。事故直後、超越ガラス化研の岩宮氏が、ゾルーゲル法に基づくガラス液剤が、土中の浸透性が高く、シロキサン結合してセシウムを固化したガラス中に取り込む性質に着目して、除染への応用を想起した。そして、彼女の熱意に動かされて、2011年の5月に福島市の渡利小学校の校庭で除染効果の試験が行われた。液剤を汚染された表土に噴霧することで表土が固化して薄く剥ぐ事ができた。剥いだ後の放射線量が確実に下がることが示された。そして、1.5cmで汚染層が除けることが分かった¹⁾。かくも簡単で確実に除染できる技術が、早期に採用できていれば、住民でも除染できて、除染廃棄物も少なく済んだものと思う。しかし、彼女の努力も空しく、除染ガイドラインに基づき事業者による除染が多大な費用と時間を掛けて行われた。

3. 不要だった汚染食品の新基準

事故後消費者庁は、汚染食品の市場に出回るのを規制した。また、国立医薬品食品衛生研究所が宮城、福島、東京の市場食品による内部被ばく量を評価し、2011年の9月の福島食品について0.019mSv/年という結果が得られた。目標の2桁低い値である。その後、食品安全委員会は、生涯被ばく100mSv以上では影響が現れると公表し、体外被ばくの寄与も考慮してか自縄自縛状況に陥り、現存被ばく状況では考えられない50%の食品汚染率を仮定して、世界一厳しい食品のCs137汚染基準値を作って厚労省大臣に答申した。その結果、国内でのゼロリスク要求を高め、汚染率の高さから海外での輸入規制を招いた。現在、内部被ばく量はさらに下がったのに、新基準の影響は未だ続き、福島産食品への風評被害を招いている。

参考文献 1) 岩宮、川合：東京電力福島第一原発環境リスク軽減へのシロキサン結合技術の活用検討, 当大会

*Masayoshi Kawai¹

¹High Energy Accelerator Research Organization (KEK)